

第5章 産業 (9)観光・レジャー業

C.5 Industries (9) Tourism & Leisure

■事業所数、従業者数が減少した観光・レジャー業

九州の主要な観光・レジャー業の2006年の従業者数は04年比で1.3%減少し、19万4,577人となった。個別業種をみると、従業者数は「旅館、ホテル」「興行場（別掲を除く）、興行団」「スポーツ施設提供業」「遊戯場」「その他の娯楽業」で2004年比マイナスとなっている。また、県別では沖縄県を除くすべての県で2004年から減少している。観光・レジャーは景気の影響を受けやすいことに加え、同業種・異業種間の競争も激しいため、厳しい環境におかれている。

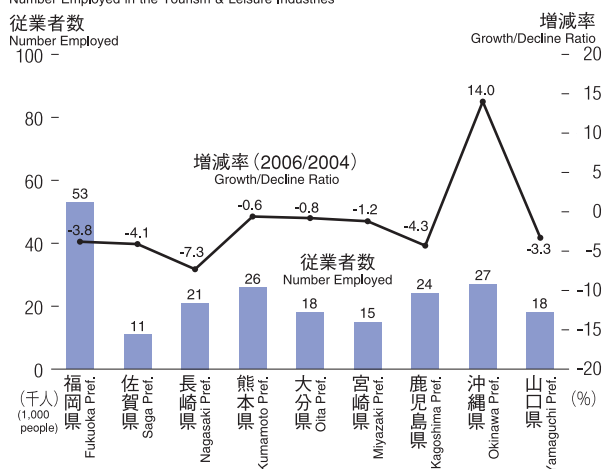
主要な観光・レジャー業の概況(2006) (単位: 事業所、人、%)
Number of Establishments & Number Employed in Tourism & Leisure (establishments, people, %)

九州8県 Kyushu's 8 Prefectures	事業所数 Number of Establishments	従業者数 Number Employed	増減率 2006/2004
合計	14,691	194,577	△ 1.3
旅行業	1,029	11,033	4.4
旅館、ホテル	6,585	91,316	△ 0.6
簡易宿所	118	657	46.0
映画館	72	1,888	22.8
興行場（別掲を除く）、興行団	154	1,364	△55.1
競輪・競馬等の競走場、競技団	30	1,003	23.2
スポーツ施設提供業	1,140	23,557	△ 3.2
公園、遊園地	162	6,891	6.6
遊戯場	3,490	45,729	△ 1.2
その他の娯楽業	1,911	11,139	△ 4.6

注) 民営事業所の集計

総務省「事業所・企業統計調査報告」

主要な観光・レジャー産業の従業者数(2006)
Number Employed in the Tourism & Leisure Industries



注) 民営事業所の集計

総務省「事業所・企業統計調査報告」

■生活防衛意識の高まり、ウォン安により九州の旅行需要は低迷

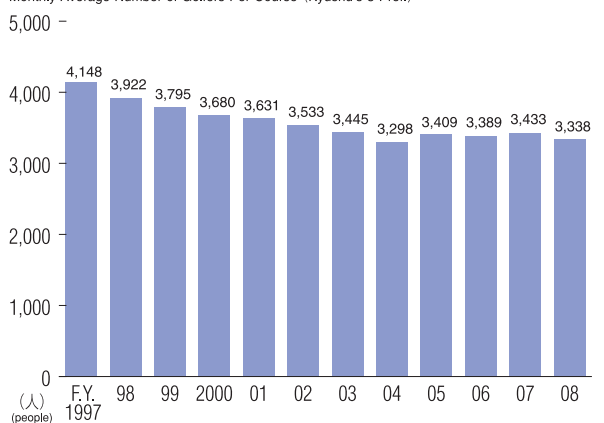
2008年度上期の九州の観光レジャーは、原油価格の高騰やそれに伴う物価上昇等により、消費者の生活防衛意識が強まったことで低迷した。また、2008年9月のリーマンショックに端を発する景気後退や円高ウォン安の影響から韓国観光客が減少し、下期も低迷が続いた。例えば、韓国観光客で賑わっていた「ハウステンボス」は、前年度比2ケタのマイナスとなっている。ゴルフ場利用者数についても前年度比2.8%減となっており、過去12年間で2番目に少ない水準となった。国内の消費低迷に加え、冬場でも比較的快適にゴルフを楽しむことで韓国観光客から人気があった南九州や沖縄県の各ゴルフ場において、円高ウォン安が暗い影を落としている。

主要テーマパーク・レジャー施設の入場者数 (単位: 百人、%)
Number of Visitors at Major Theme Parks, Leisure Facilities (100 people, %)

	F.Y.2006	F.Y.2007	F.Y.2008	前年比
主要テーマパーク・レジャー施設計	40,147	40,271	36,820	△ 8.6
マリンワールド海の中道	6,591	6,559	6,299	△ 4.0
ハウステンボス	21,363	21,935	18,679	△14.8
セントレジャー城島高原パーク	5,530	4,786	4,817	0.6
いおワールドかごしま水族館	6,663	6,991	7,026	0.5

各施設調べ

1ゴルフ場当り月平均利用者数(九州8県)
Monthly Average Number of Golfers Per Course (Kyushu's 8 Pref.)



九州ゴルフ連盟